

平成 22 年度

静岡県特定外来植物生息分布調査

平成 22 年 10 月

静岡県

一 目 次

1. 業務等概要	1
1-1 業務の目的	1
1-2 業務の概要	1
2. 調査内容	1
2-1 現地調査	1
3. 調査結果	5
3-1 調査対象種の確認状況	5
3-2 まとめ	24
3-3 調査対象種の解説	24

資料編

1. 業務等概要

1-1 業務の目的

本業務は、特定外来植物の静岡県内での分布状況について現況調査を行い、その結果を県民に広く周知することで、その取り扱い注意を喚起し、特定外来植物の拡散防止に寄与することを目的とした。

1-2 業務の概要

静岡県内における特定外来植物の分布を現地調査により確認し、特定外来植物の分布実態マップを作成した。

2. 調査内容

2-1 現地調査

① 調査対象種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（以後、外来生物法と記す）で指定されている特定外来生物の植物 12 種類のうち、日本での分布が未確認のスパルティナ・アングリカ（イネ科）を除く 11 種類（オオキンケイギク、ミズヒマワリ、オオハングンソウ、ナルトサワギク、オオカワヂシャ、ナガエツルノゲイトウ、ブラジルチドメグサ、アレチウリ、オオフサモ、ボタンウキクサ、アゾラ・クリスタータ）を調査対象種とした。また、要注意外来生物として掲げられている植物から、水域に生育し、「在来種との競合駆逐等のおそれがあるため、積極的な防除または分布拡大のための抑制策の検討」が望まれているオオカナダモ、コカナダモ、ホテイアオイの 3 種類についても調査対象種に含めた。

② 調査期間

現地調査の期間は、植物の生育が全般的に旺盛とされる夏季から秋季までとし、平成 22 年 7 月 26 日から 10 月 9 日まで実施した。

③ 調査区域

現地調査は、一般に外来生物が比較的多いとされる水域（河川を主体に湖沼・池など）と、それに隣接する主要道路を中心に実施するが、山間部（静岡県北部）を除く県域を広範に把握できるよう努めた。また、河川においては距離 3～4 km ごとに調査地点を設定し、踏査による確認も行った（図 2.1 参照）。

7. 国土交通省や静岡県が管理する河川のうち、河川沿いに自動車道が整備されている区域。
（1 級河川：6 水系〔狩野川、富士川、安倍川、大井川、菊川、天竜川〕、
2 級河川：83 水系〔青野川、巴川、瀬戸川、弁財天川、太田川、都田川等〕）

4. 国道や県道に隣接する湖沼とその周辺区域

(桜ヶ池、佐鳴湖、居沼池、渡辺池、兼政池、京徳池、大鹿池、東大谷池、田ヶ池、浜名湖、鶴ヶ池、桶ヶ谷沼、丹野池、笹間川ダム湖、長島ダム湖、大池調整池、田貫湖、天神原貯水池、阿多野貯水池、いなさ湖、東山湖、蓮華寺池、野守の池、鯨ヶ池、麻機遊水池、水窪湖、井川湖、門池、早霧湖、松川湖、一碧湖等)

㊦. 静岡県内の主要国道（1 号、52 号、42 号、135 号、136 号、138 号、139 号、150 号、152 号、246 号、257 号、362 号、414 号、469 号、473 号）の沿線区域、県道および市町道等の沿線区域。

③ 現地調査の方法

調査区域を車で走行するとともに、河川では 3～4km の距離毎に設定した調査地点を踏査しながら、調査対象種の分布状況を確認した。そして、その分布が確認された場合は 2 次メッシュ図（縮尺 2 万 5 千分の 1 地形図）に位置情報をできる限り正確にマーキングし、生育場所がわかるような環境の写真や、生育個体の写真などを撮影した。ただし、車の往来が多く停車が困難な道路においては、図面に位置情報を記録するにとどめ、写真撮影は行わなかった。

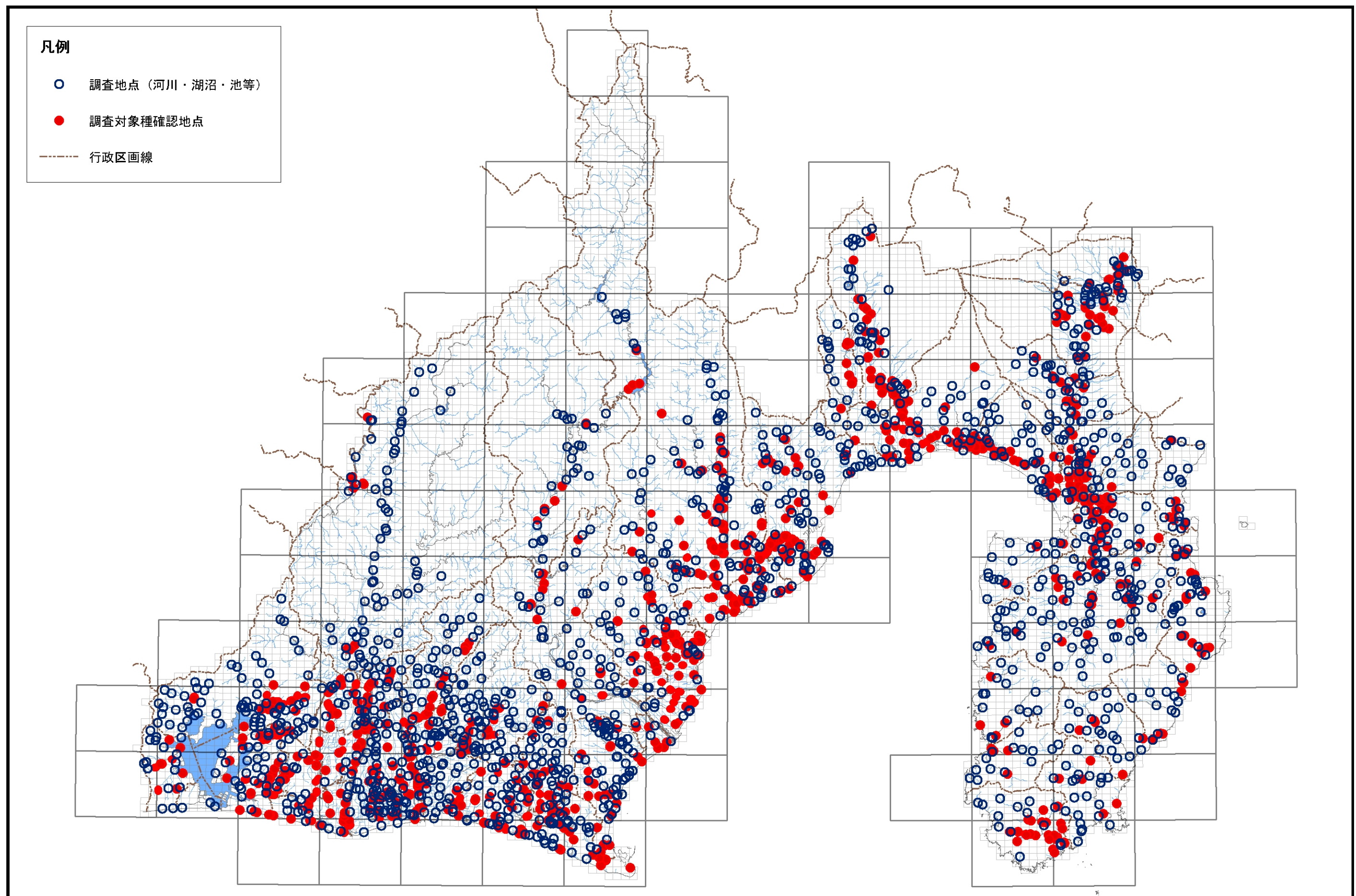


図 2.1 (1) 調査地点図（河川・湖沼・池等）

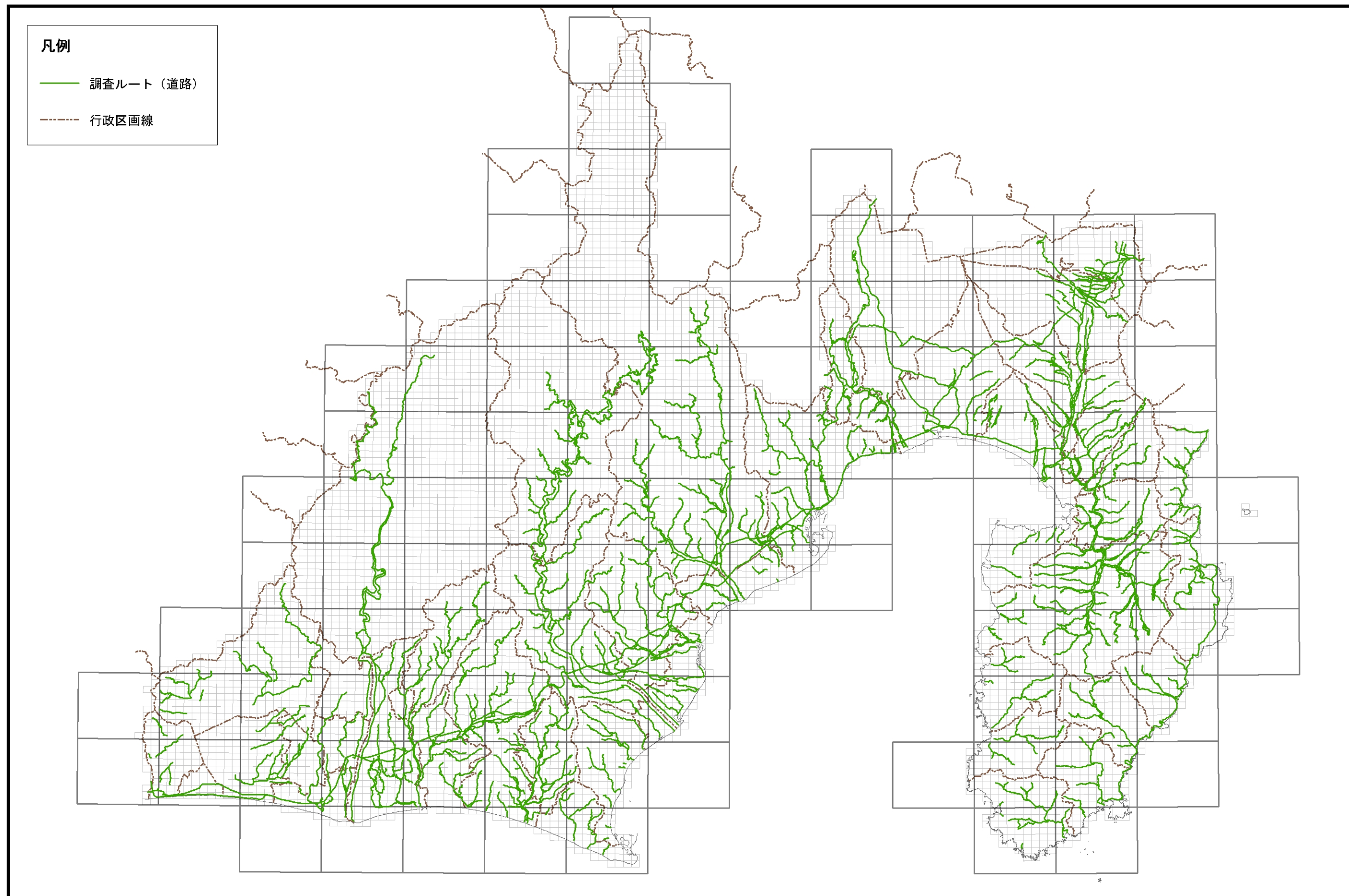


図 2.1 (2) 調査ルート図（道路）

3. 調査結果

3-1 調査対象種の確認状況

現地調査の結果、調査対象種（特定外来生物の植物 11 種類、要注意外来生物の植物 3 種類）のうち、ブラジルチドメグサを除く 13 種類の分布が確認された。なお、ブラジルチドメグサについては、県内における既知の分布記録はないが、愛知県など隣県において分布が確認され、県内でも生育の可能性が否定できない種類として調査対象としたものである。

調査対象種の確認状況は表 3.1 に示すとおり、オオキンケイギクがもっとも多く 301 地点、次いでオオカナダモ（263 地点）、アレチウリ（181 地点）、コカナダモ（81 地点）、ホテイアオイ（67 地点）となり、県内 1,039 地点で特定外来生物または要注意外来生物 3 種類のいずれかの種類の分布が確認された。

種類別では、オオキンケイギクがもっとも広範に分布しており、特に道路脇の付帯施設（法面など）に沿って分布しているのが確認された。しかし、本業務の実施期間は生育確認の容易なオオキンケイギクの開花期（5 月中旬～7 月上旬）ではなかったため、実際の分布域はもっと広いと予想される。オオカナダモは、平野部の小河川で広く確認され、切れ藻でも繁殖できることから、水中に密生している場所も多かった。アレチウリは、河川の土手や河川敷で多く確認され、天竜川、狩野川などの大河川、その他小河川でも一面を被うような状態の場所もあった。コカナダモは、一部でオオカナダモと混在している場所もあったが、県東部の河川にやや偏在する傾向がみられた。ホテイアオイは、平野部の池沼、河川域で主に確認され、水面一面を被っている場所や、観賞用あるいは水質浄化目的で栽培されている場所もみられた。一方、確認地点数が少なかったのは、ミズヒマワリ、ボタンウキクサの 2 種類であり、ミズヒマワリは天竜川下流域、ボタンウキクサは湧水池のみの確認である。

全般に、特定外来生物、要注意外来生物に指定されている、いずれの植物も増殖能力が高く、種子の大量生産や、植物体（葉や茎）の一部からの栄養繁殖が可能であり、水系や道路網などのネットワークを通じて線状・網状に分布していることが調査結果（特に図面）から読みとることが出来る。

以下、確認された調査対象種 13 種類の静岡県における分布状況（図 3.1 参照）、調査対象種の解説を本文中に、確認種毎の確認一覧表を資料編に掲載する。

表 3.1 調査対象種の確認状況

科名	種名	確認地点数	備考
キク科	オオキンケイギク	301 地点	特定外来生物
	ミズヒマワリ	2 地点	〃
	オオハンゴンソウ	8 地点	〃
	ナルトサワギク	15 地点	〃
ゴマノハグサ科	オオカワヂシャ	30 地点	〃
ヒユ科	ナガエツルノゲイトウ	27 地点	〃
セリ科	ブラジルチドメグサ	0 地点	〃
ウリ科	アレチウリ	181 地点	〃
アリノトウグサ科	オオフサモ	54 地点	〃
サトイモ科	ボタンウキクサ	2 地点	〃
アカウキクサ科	アゾラ・クリスタータ	8 地点	〃
トチカガミ科	オオカナダモ	263 地点	要注意外来生物
	コカナダモ	81 地点	〃
ミズアオイ科	ホテイアオイ	67 地点	〃
確認地点数の合計		1,039 地点	—